

社会福祉基礎

総合学科

教科	福祉	単位数	2単位	対象	1年次	選択群	
使用教科書	社会福祉基礎 (実教出版)			副教材等	社会福祉士基礎学習ノート	履修	必履修・ <b>選択</b>
授業の概要				学習の到達目標		履修の条件・進路	
高齢者や障害を有する人々の尊厳の保持と自立とは何かについて考え、認識を深めていきます。さらに尊厳の保持や自立支援を介護福祉士が生活支援の場ではどのようにとらえ、実践していけば良いのかを事例を通して学びます。また、その際必要とされるコミュニケーションについての知識と技術についても学習します。				<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉に関する基礎的な知識と技術を習得し、社会福祉全体についての理解を深める。</li> <li>現代社会における社会福祉の意義や役割などについて理解を深め、社会福祉の基本的な見方や考え方を身に付ける。</li> <li>人間としての尊厳の認識を深め、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる。</li> </ul>		介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項目	学 習 内 容			
	4月						
	5月						
	6月						
	7月	第1編 社会福祉の 理念と意義 第3編 生活を支える 社会福祉・ 社会保障制 度	第1章 生活と福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>少子高齢化と人口減少社会の到来</li> <li>日本国憲法と社会福祉</li> <li>人間としての尊厳</li> <li>社会保障制度の意義と役割</li> <li>人口の高齢化と高齢者福祉</li> <li>介護保険制度</li> <li>認知症ケア</li> </ul>			
	9月		第2章 社会福祉の理念				
	10月		第3章 人間の尊厳と福祉社会の創造				
	11月	第3編 生活を支える 社会福祉・ 社会保障制 度	第1章 社会福祉・社会保障制度の意義と役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉を支える諸原理</li> <li>自立生活支援</li> <li>社会福祉と社会保障制度</li> <li>高齢者の在宅サービス</li> <li>介護保険施設・老人福祉施設・その他</li> </ul>			
	12月		第4章 高齢者福祉				
	1月		第3章 障害者福祉				
	2月	第3編 生活を支える 社会福祉・ 社会保障制 度	第4章 高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の地域生活を支える各種サービス</li> <li>高齢者福祉の将来・障害者福祉とは</li> <li>身体障害者の現状と課題</li> <li>身体障害者福祉の推進</li> <li>障害者の自立支援</li> <li>知的障害者の現状と課題</li> <li>障害者グループホーム・ケアホーム</li> <li>発達障害をめぐる多様な課題と支援</li> <li>精神障害者の支援</li> </ul>			
	3月						
学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読んで理解しましょう。分からない専門用語については、事前に調べておきましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、板書以外にもポイントとなることはメモをとっておきましょう。</p> <p>【復習】 学習した福祉課題に対して、自分の考えをまとめる課題が頻繁に出されるので、きちんと提出しましょう。また新聞やTVニュース等による最新の福祉情報も素早く入手できるようにしておきましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技 能		知識・理解
	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉に対する関心をもち、福祉社会が抱える課題に意欲を持って取り組むとともに、社会福祉に関する幅広い視野と福祉観や向上を図る態度を探究し介護を行う上での基本的な考え方や介護を適切に行う態度を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>社会構造や日常生活から起こる社会福祉に関する諸問題の解決を目指し、考えを深め、基礎的な知識と技術を基に、介護に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉に関する基礎的な知識や技術を身に付け福祉に関する諸活動に対応することを目指して、様々な資料や情報を収集し、適切に選択して活用している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>現代社会における社会構造の変容や特色について理解し、社会福祉に関する基礎的な知識を身に付けるとともに社会福祉の意義や役割について理解している。</li> </ul>
評価方法	評価方法 ※ 上記の観点を基に、2・3学期とも評価する。 A：主に考査による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		第1・2学期		第3学期		年度末
					A：6割 B：4割 Bは、授業態度、課題の取組状況、ボランティア等福祉活動の取組状況等		3学期の成績を基に総合的に評価します。
備考	10月から7限目に補習を行います。11月から数Aに代わり、当科目の授業を行います。						

介護実習

総合学科

教 科	福 祉	単位数	1 単位	対象	1 年次	選択群	
使用教科書	最新・介護福祉士養成講座10 (中央法規)			副教材等			履修 必履修・ <b>選択</b>
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>社会福祉の施設等における介護実習を通して、高齢者や障害者への個別ケアを理解します。介護技術の実践を通して、介護に関する基礎的な知識と技術、態度を身に付ける科目です。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>介護実習の意義・心得を理解した上で実習に臨む。</li> <li>施設の概要や介護福祉士の役割等をふまえた上で、基本的な知識や技術の定着を図る。</li> <li>自らの課題を発見し、2年次の介護実習につなげる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。</li> <li>福祉サービス系列選択者のみ履修可能です。</li> </ul>	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目		学 習 内 容		
	4月	・介護実習	1 介護技術の実践 2 コミュニケーションの実践 3 多職種協働及びチームケアの理解		<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の場における個別ケアの理解</li> <li>利用者・家族とのコミュニケーションの実践</li> <li>介護技術の確認</li> <li>多職種協働や関係機関との連携</li> <li>チームの一員としての介護福祉士の役割の理解</li> <li>記録の意味・記録の種類と書き方・記録の活用と秘密保持</li> </ul>		
	5月						
	6月						
	7月						
	9月						
	10月						
	11月						
	12月						
	1月						
	2月						
	3月						
学習方法	<p>【予習】 「介護実習オリエンテーション資料」をよく読みましょう。また、技術面の復習をしっかりと行いましょう。</p> <p>【実習】 介護専門職としての自覚をもって取り組むとともに、礼儀・規律を重んじて謙虚な気持ちで学びましょう。疑問点はその日のうちに解決しましょう。</p> <p>【復習】 実習日誌は毎日、現場実習指導者に提出しますので、きちんと整理しておきましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技 能		知識・理解
	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護専門職としての自覚をもち、真摯かつ謙虚な気持ちで実習に取り組む介護を行う上での基本的な考え方や介護を適切に行う態度を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>介護現場の状況に応じて適切に対応し、介護技術やコミュニケーション方法などを対象者に応じて選択し介護専門職として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>介護専門職としての基本的な知識や技術について情報を収集し適切に選択して活用している。</li> <li>介護サービスに関する情報を収集し、適切に日誌にまとめ記録し活用している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>介護専門職の役割を理解するとともに、基本的な知識・技術を理解している。</li> <li>介護専門職としてふさわしい態度や資質を理解している。</li> </ul>
	評価方法 ※ 上記の観点を基に、実習において評価する。		第1・2学期		第3学期		年度末
				実習日誌（日誌・自己評価・実習報告）、実習先の評価、介護実習の取組状況などから、総合的に評価します。		3学期の実習の評価を基に総合的に評価します。	
備考	福祉サービス系列選択者は12月頃に4日程度、介護実習を行います。						

介護福祉基礎

総合学科

教科	福祉	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	
使用教科書	介護福祉基礎 (実教出版)			副教材等		履修	必修・ <b>選択</b>
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>介護とは何か、介護の意義と役割について学びます。介護従事者としての心構え・注意点等を学び、国民の求める介護従事者の在り方について考えていきます。また、介護従事者として必要な介護福祉サービスの具体的な内容及び利用方法等の知識を深めていきます。</p>			<p>・介護の果たす意義と役割について理解する。 ・介護を適切に行うための能力と態度 介護従事者としての職業観を身に付ける。 ・介護活動に意欲的に取り組むことができる。</p>			<p>・介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。</p>	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	第1編 介護の意義 と役割	第1章 尊厳を支える介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その人らしく・尊厳・基本的人権</li> <li>・高齢者に人格と尊厳</li> <li>・障害のある人の人格と尊厳</li> <li>・利用者本位の介護サービス</li> <li>・尊厳・プライバシー保護</li> <li>・専門性と基本姿勢</li> <li>・介護従事者として踏まえるべき倫理</li> </ul>			
	5月		第2章 介護従事者の倫理				
	6月	第2編 介護を必要 とする人の 理解と介護	第1章 高齢者の生活と介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援</li> <li>・高齢者に見られる特徴的な症状</li> <li>・高齢者と活動</li> <li>・認知症高齢者</li> </ul>			
	7月						
	9月	第2編 介護を必要 とする人の 理解と介護	第1章 高齢者の生活と介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活を支える介護</li> <li>・コミュニケーション</li> <li>・運動・移動介護の基本</li> <li>・食事介護の基本</li> <li>・排泄介護の基本</li> <li>・着替え介護の基本</li> <li>・入浴介護の基本</li> <li>・身体障害者の生活と支援</li> <li>・知的障害者の生活と支援</li> <li>・発達障害者の生活と支援</li> <li>・精神障害者の生活と支援</li> </ul>			
	10月						
	11月		第2章 障害者の生活と支援				
	12月						
	1月	第3編 介護を必要 とする人の 生活環境	第1章 介護と環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活環境を整えること</li> <li>・高齢者の生活と住まい</li> <li>・障害者と住まい</li> <li>・福祉用具の活用</li> <li>・自立・生活支援</li> <li>・生活支援と介護</li> <li>・自立を支援する介護専門職</li> <li>・自立を支援する生活環境づくり</li> </ul>			
	2月		第2章 自立に向けた介護				
	3月						
学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読んで理解しましょう。分からない専門用語については、事前に調べておきましょう。          【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、その時間に質問しましょう。演習等で学ぶ介護技術については、よく見て体験的に身に付けていきましょう。          【復習】 その日に学習した内容の重要ポイントは、必ず覚えましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知 識・理 解			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護に関心をもち、介護に関する諸課題に主体的に取り組むとともに、介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護を行う上での基本的な考え方と介護を適切に行う態度を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活から派生する介護福祉に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、介護に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護に関する基礎的・基本的な知識や技術を身に付け、介護を必要とする人に、自立支援の観点に基づいた適切な介護福祉サービスを提供することを目指してその技術を活用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉に関する基礎的な知識を身に付けるとともに、介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護の意義や役割について理解している。</li> </ul>			
	<p>評価方法</p> <p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。          A：主に調査による観点別評価          B：主に授業等の活動による観点別評価</p>	第1・2学期	第3学期	年度末			
	A：6割 B：4割 Bは、小テスト、課題の取組、授業態度、長期休業中の課題等	A：6割 B：4割 Bは、小テスト、課題の取組、授業態度、長期休業中の課題等	1・2・3学期の平均				
備考							

生活支援技術

総合学科

教 科	福 祉	単位数	5 単位	対象	2 年次	選択群	
使用教科書	生活支援技術 (実教出版)			副教材等		履修	必履修・ <b>選択</b>
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>利用者の自立を尊重した生活を支援するための基本介護技術を学びます。また、状況に応じて介護を展開する「現場で活かせる技法」の習得を目指します。</p> <p>さらに、高齢者の心と体の特性についての学習を基に、認知症や心身に障害をもつ高齢者に対して、適切な介護を行うことができる能力と態度を育てます。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の暮らしの場に密着した支援と、居住環境の整備や家事支援における介護のあり方を理解する。</li> <li>・利用者の自立をふまえ移動、食事、排泄等、生活行為ごとの基本介護技術を身に付ける。</li> <li>・さまざまな障害がある利用者の生活について理解を深め、それぞれの障害に応じた介護技術の習得に向けて努力できる。</li> </ul>			<p>・介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。</p>	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	第1編 私たちの暮らしと生活支援	第1章 生活支援の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に視点を置く</li> <li>・生活支援の考え方</li> <li>・他の職種の役割と協働</li> </ul>			
	5月		第2章 生活支援に向けたアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援におけるアセスメント</li> <li>・ICFの視点とアセスメント</li> </ul>			
	6月		第3章 福祉用具の意義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援における福祉用具の重要性</li> <li>・福祉用具の種類</li> <li>・適切な福祉用具を選ぶための視点</li> </ul>			
	7月	第2編 自立に向けた生活支援技術	第1章 居住環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援における居住環境整備の意義・基本理念</li> <li>・安心で快適な生活の場づくり</li> </ul>			
	9月		第2章 家事の介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家事支援の意義と目的</li> <li>・家事の支援における介護技術</li> </ul>			
	10月		調理 洗濯 掃除 裁縫 衣類・寝具の衛生管理 買い物 家庭経営				
	11月						
	12月	第2編 自立に向けた生活支援技術	第3章 身じたくの介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身じたくの意義と目的</li> <li>・身じたくにおける介護技術</li> </ul>			
	1月		第4章 移動の介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動の意義と目的</li> <li>・移動・移乗における介護技術</li> </ul>			
	2月						
	3月						
学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読んで理解しましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、その時間に質問しましょう。介護技術については、模範実技をよく見て体験的に身に付けていきましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容の重要ポイントは、必ず覚えましょう。実技実習の時は、学習した内容についてまとめて、レポートを提出します。</p>						
評価の観点・評価基準・評価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技 能		知識・理解
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援技術の理念に関心を持ち、積極的に授業に参加し、高齢者や障害者の命と生活に責任をもつ専門職としての職業観を探究し介護を行う上での基本的な考え方と介護を適切に行う態度を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援に関する諸問題の解決を目指して、自ら思考を深め、介護に携わる者として適切に判断し表現する創造的な能力を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、介護従事者として安全に支援を行うために必要な様々な資料や情報を収集し、適切に選択して活用している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者や障害者の特性、対象者の状態に応じた介護方法に関する知識・技術を理解している。</li> <li>・支援方法の原理・原則を科学的に理解している。</li> </ul>
	<p>評価方法</p> <p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。</p> <p>A：主に考查による観点別評価</p> <p>B：主に授業等の活動による観点別評価</p>		第1・2 学期		第3 学期		年度末
		A：6割 B：4割 Bは小テスト、実技、テスト、実習記録、授業態度、長期休業中の課題等		A：6割 B：4割 Bは、小テスト、実技テスト、授業態度、長期休業中の課題等		1・2・3 学期の平均	
備考							

介護過程

総合学科

教科	福祉	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	
使用教科書	介護過程 (実教出版)			副教材等		履修	必履修・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
他科目で学んだ知識と技術を統合し、適切に介護過程を展開するための理論と方法を学びます。 さらに、介護過程の一連の流れを通して、介護従事者として必要な視点と能力を身に付けます。			<ul style="list-style-type: none"> <li>サービス利用者に応じた適切な介護を提供するには、介護過程が必要不可欠であることを理解する。</li> <li>介護過程の一連の流れについて理解し、サービス利用者の自立や希望を尊重した介護過程が展開できる。</li> </ul>			介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	第1編 介護過程の 意義と目的	第1章 介護過程がめざすもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援と根拠にもとづいた介護 介護の目標と生活支援</li> </ul>			
	5月			<ul style="list-style-type: none"> <li>介護過程の意義 介護過程とは</li> </ul>			
	6月			<ul style="list-style-type: none"> <li>介護過程の目的・基本視点 介護過程の展開の基本的視点</li> </ul>			
	7月						
	9月	第2編 介護過程の 展開	第1章 情報収集アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>アセスメント</li> <li>情報の収集</li> <li>情報の解釈・関連付け・統合化</li> </ul>			
	10月		第2章 生活課題と目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の明確化</li> <li>情報の記載の方法</li> </ul>			
	11月		第3章 介護計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標の設定</li> <li>目標の共有化</li> <li>介護計画の概要</li> <li>個別介護計画の立案</li> </ul>			
	12月						
	1月	第2編 介護過程の 展開	第4章 介護計画の実施と評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護計画の実施 実施の記録</li> </ul>			
	2月			<ul style="list-style-type: none"> <li>介護過程のモニタリング・評価 評価の意義・目的 評価の方法・留意点 介護計画の変更・修正</li> </ul>			
	3月						
学習方法	<p>【予習】 教科書を事前にしっかりとよく読んでおきましょう。</p> <p>【授業】 他の福祉科目と関連付けながら、座学と演習を通して、知識と技術を身に付けていきましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容はしっかりと復習しましょう。</p>						
評価の 観点・ 評価規 準・評 価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技 能		知識・理解
	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護過程に興味をもち、高齢者や障害者などの自立生活支援に向けて、介護を行う上での基本的な考え方や、介護を適切に行う態度を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>介護過程の意義と役割をふまえ、課題を解決するための思考を深め、介護に携わる者として適切に判断し表現する創造的な能力を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者の自立や希望に目を向けた介護過程のための情報を収集し選択して活用している。</li> <li>具体的な事例を通して、チームアプローチの展開方法を身に付け、その技術を活用している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>個別性を考慮した適切な介護の提供には、介護過程が必要なことを理解している。</li> <li>介護過程の展開には、国際生活機能分類の視点を考慮する必要があることを理解している。</li> </ul>
	評価方法 ※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に調査による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		第1・2学期 A：6割 B：4割 Bは、小テスト、レポート、長期休業中の課題、授業態度等		第3学期 A：6割 B：4割 Bは、小テスト、レポート、授業態度、長期休業中の課題等		年度末 1・2・3学期の平均
備考							



介護実習

総合学科

教科	福祉	単位数	5単位	対象	2年次	選択群	
使用教科書	最新・介護福祉士養成講座10 (中央法規)			副教材等			履修 必履修・ <b>選択</b>
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>社会福祉の施設等における介護実習を通して、講義・演習・校内実習などで学んだ知識と技術を実際に活用し、高齢者や障害者への総合的な介護活動を実践し、介護に関する基礎的な知識と技術、態度を身に付ける科目です。</p>			<p>・介護実習の意義・心得を理解した上で実習に臨む。 ・施設の概要や介護専門職の役割等をふまえた上で、基本的な知識や技術の定着を図る。 ・自らの課題を発見し、3年次の介護実習につなげる。</p>			<p>・介護福祉士国家試験受験資格取得のために必ず履修してください。 ・福祉サービス系列選択者のみ履修可能です。</p>	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	・介護実習	1 介護技術の実践 2 コミュニケーションの実践 3 他職種協働及びチームケアの理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の場における個別ケアの理解</li> <li>利用者・家族とのコミュニケーションの実際</li> <li>介護技術の確認</li> <li>他職種協働や関係機関との連携</li> <li>チームの一員としての介護福祉士の役割の理解</li> <li>記録の意味・記録の種類と書き方・記録の活用と秘密保持</li> </ul>			
	5月						
	6月						
	7月						
	9月	・介護実習	1 介護技術の実践 2 コミュニケーションの実践 3 他職種協働及びチームケアの理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の場における個別ケアの理解</li> <li>利用者・家族とのコミュニケーションの実際</li> <li>介護技術の確認</li> <li>他職種協働や関係機関との連携</li> <li>チームの一員としての介護福祉士の役割の理解</li> <li>記録の意味・記録の種類と書き方・記録の活用と秘密保持</li> </ul>			
	10月						
	11月						
	12月						
	1月						
	2月						
	3月						
学習方法	<p>【予習】 「介護実習オリエンテーション資料」をよく読みましょう。また、技術面の復習をしっかりと行いましょう。          【授業】 介護専門職としての自覚をもって取り組むとともに、礼儀・規律を重んじて、謙虚な気持ちで学びましょう。疑問点はその日のうちに解決しましょう。          【復習】 実習日誌は毎日、現場実習指導者に提出しますので、きちんと整理しておきましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護専門職としての自覚をもち、真摯かつ謙虚な気持ちで実習に取り組んでいる。</li> <li>介護を行う上での基本的な考え方や介護を適切に行う態度を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護現場の状況に応じて適切に対応し、介護技術やコミュニケーション方法などを対象者に応じて選択し介護専門職として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護専門職としての基本的な知識や技術について情報を収集し適切に選択して活用している。</li> <li>介護サービスに関する情報を収集し、適切に日誌にまとめ記録し活用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護専門職の役割を理解するとともに、基本的な知識・技術を理解している。</li> <li>介護専門職としてふさわしい態度や資質を理解している。</li> </ul>			
※ 上記の観点を基に、各実習とも評価する。	第1・2学期		第3学期		年度末		
	実習日誌（日誌・自己評価・実習報告）、実習先の評価、介護実習の取組状況などから、総合的に評価します。				2学期の実習の評価を基に総合的に評価します。		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習は八幡浜市等の近隣の施設で行います。</li> <li>7月頃に10日程度、11月頃に10日程度介護実習を行います。</li> </ul>						

こころとからだの理解

総合学科

教 科	福 祉	単位数	3 単 位	対 象	2 年 次	選 択 群					
使用教科書	こころとからだの理解 (実教出版)			副教材等			履修	必履修・ <b>選択</b>			
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路				
介護を行う上で必要となる、人間の「からだのしくみ」と「こころのしくみ」を学びます。さらに、認知症、障害のある人の生活と介護を学ぶことで、介護実践に適切に活用できる技術と知識を身に付けます。				介護を行う上で必要となる、人間の「からだのしくみ」と「こころのしくみ」を学びます。さらに、認知症、障害のある人の生活と介護を学ぶことで、介護実践に適切に活用できる技術と知識を身に付けます。			・介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。				
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容							
	4月	第1編 こころとからだの基礎的理解	第1章 こころのしくみの理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>私たちの生活と健康</li> <li>人間の欲求と基本的理解</li> <li>自己概念と尊厳</li> <li>意欲・動機づけ・思考・感情・記憶・学習・適応のしくみ</li> </ul>							
	5月		第2章 からだのしくみの理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>生命維持・恒常性・脳・神経系・運動器系・循環器系・消化器系・呼吸器系・感覚器系・内分泌系・泌尿器系</li> <li>生殖器系・血液・免疫系のしくみ</li> </ul>							
	6月			7月							
	9月	第2編 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解	第1章 生活動作に関するこころとからだのしくみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>身じたくに関するこころとからだのしくみ</li> <li>移動に関するこころとからだのしくみ</li> <li>食事に関するこころとからだのしくみ</li> <li>入浴・清潔に関するこころとからだのしくみ</li> <li>排せつに関するこころとからだのしくみ</li> <li>睡眠・休養に関するこころとからだのしくみ</li> </ul>							
	10月		第2章 生活に関するこころとからだの特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症に関するこころとからだのしくみ</li> <li>緊急時・災害時に関するこころとからだのしくみ</li> <li>終末期に関するこころとからだのしくみ</li> </ul>							
	11月			12月							
	1月	第3編 人間の成長と発達の基礎的理解	第1章 発達とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達と老化の理解</li> <li>人間の発達と発達課題</li> <li>老年期の発達と成熟</li> <li>加齢に伴う心身の変化の特徴</li> <li>加齢に伴う心身の変化と日常生活への影響</li> <li>高齢者の心理</li> <li>高齢者の疾病と生活上の留意点</li> <li>保健・医療職との連携</li> </ul>							
	2月		第2章 老年期の理解と日常生活								
	3月		第3章 高齢者と健康								
	学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読んで理解し、専門用語はしっかりとまとめておきましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、その時間に質問しましょう。板書以外にもポイントとなることはメモをとっておきましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容の重要なポイントは必ず覚え、まとめておきましょう。</p>									
	評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技 能			知識・理解		
<ul style="list-style-type: none"> <li>人体の構造やはたらきや人間の基本的な生活行動に関する器官の働きや疾病の成り立ちに関心を持ち、介護を行う上での基本的な考え方や介護を適切に行う態度を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>人体のこころとからだの理解の必要性を理解し、医学的根拠に基づいた援助活動を考え、疾病の治療や予防について介護に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>人体の構造と機能の知識をもとに、介護の現場に生かすことを目指してその技術を活用している。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>人体の構造と機能、こころのしくみ、認知症、障害に関する基礎的な内容についての知識を身に付けている。</li> <li>人間の健康と疾病及びこれらと環境の関係について理解している。</li> </ul>				
評価方法 ※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に検査による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		第1・2学期		第3学期			年度末				
		A：7割 B：3割 Bは授業態度、小テスト、課題の提出、ノート、長期休業中の課題等		A：7割 B：3割 Bは授業態度、小テスト、課題の提出、ノート、長期休業中の課題等			1・2・3学期の平均				
備考	・他教科（理科・保健等）と関連が深い授業です。										



社会福祉基礎

総合学科

教科	福祉	単位数	2単位	対象	3年次	選択群		
使用教科書	社会福祉基礎 (実教出版)			副教材等			履修 必履修・ <b>選択</b>	
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
高齢者や障害を有する人々の尊厳の保持と自立とは何かについて考え、認識を深めていきます。さらに尊厳の保持や自立支援を介護福祉士が生活支援の場ではどのようにとらえ、実践していけば良いのかを事例を通して学びます。また、その際必要とされるコミュニケーションについての知識と技術についても学習します。			<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉に関する基礎的な知識と技術を習得し、社会福祉全体についての理解を深める。</li> <li>現代社会における社会福祉の意義や役割などについて理解を深め、社会福祉の基本的な見方や考え方を身に付ける。</li> <li>人間としての尊厳の認識を深め、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる。</li> </ul>			介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。		
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項目	学 習 内 容				
	4月	第2編 社会福祉の歴史と福祉社会の課題	第1章 諸外国における社会福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>イギリスにおける社会福祉の発展</li> <li>アメリカにおける社会福祉の発展</li> <li>北ヨーロッパの社会福祉</li> <li>アジアの少子高齢化と社会福祉の課題</li> </ul>				
	5月		第2章 日本における社会福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>近代社会福祉の誕生・先覚者の活躍</li> <li>「地域福祉」の始まり</li> <li>社会事業への着手</li> </ul>				
	6月	第3編 生活を支える社会福祉・社会保障制度	第5章 生活支援のための公的扶助	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦後混乱期から福祉三法体制の確立へ</li> <li>高度経済成長時代と社会福祉六法</li> <li>福祉改革とゴールドプラン</li> <li>生活保護とは</li> <li>生活保護の種類と基準</li> <li>生活保護の実施運営体制と最近の動向</li> </ul>				
	7月			第6章 国民生活を支える社会保障制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の社会保障制度の枠組み</li> <li>健康保険・国民健康保険・高齢者医療制度等</li> <li>公的年金制度の体系</li> <li>雇用保険と労災保険</li> </ul>			
	9月	第3編 生活を支える社会福祉・社会保障制度	第1章 コミュニケーションの基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションの意義・役割・基礎的方法</li> <li>傾聴・受容・共感の姿勢</li> </ul>				
	10月			第2章 援助における人間関係の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者理解と援助者の自己理解</li> <li>個別援助技術・集団援助技術・地域援助技術の活用と福祉活動</li> </ul>			
	11月	第4編 人間関係とコミュニケーション	第3章 社会福祉援助活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域福祉活動とボランティア</li> <li>福祉のまちづくりと地域社会の到来</li> </ul>				
	12月			第1章 地域福祉の進展と地域の将来	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域医療</li> <li>教育・雇用・就労支援・住宅・居住サポート</li> </ul>			
	1月	第5編 地域福祉の進展と多様な社会的支援制度	第2章 多様な社会的支援制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>司法と福祉の連携</li> <li>権利擁護と成年後見制度</li> <li>新しい社会連帯と福祉の推進</li> <li>多様なニーズを抱える人々への支援</li> <li>福祉・介護人材の養成とキャリア形成</li> <li>日本における社会福祉の役割と新しい方向</li> </ul>				
	2月			第3章 社会福祉の将来と福祉の担い手				
	3月							
学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読んで理解しましょう。分からない専門用語については、事前にて調べておきましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、板書以外にもポイントとなることはメモをとっておきましょう。</p> <p>【復習】 授業中に出てきた法制度については、社会福祉小六法でもう一度チェックしておきましょう。</p>							
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技 能		知識・理解	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉に対する関心をもち、福祉社会が抱える課題に意欲を持って取り組むとともに、社会福祉に関する幅広い視野と福祉観や向上を図る態度を探究し介護を行う上での基本的な考え方や介護を適切に行う態度を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>社会構造や日常生活から起こる社会福祉に関する諸問題の解決を目指し、考えを深め、基礎的な知識と技術を基に、介護に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉に関する基礎的な知識や技術を身に付け福祉に関する諸活動に対応することを目指して様々な資料や情報を収集し適切に選択して活用している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>現代社会における社会構造の変容や特色について理解し、社会福祉に関する基礎的な知識を身に付けるとともに社会福祉の意義や役割について理解している。</li> </ul>	
評価方法	<p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。</p> <p>A：主に考査による観点別評価</p> <p>B：主に授業等の活動による観点別評価</p>		第1・2学期		第3学期		年度末	
			A：7割 B：3割 Bは、授業態度、課題の取組状況、ボランティア等福祉活動の取組状況等		A：7割 B：3割 Bは、授業態度、課題の取組状況、ボランティア等福祉活動の取組状況等		1・2・3学期の平均	
備考								

介護福祉基礎

総合学科

教科	福祉	単位数	3単位	対象	3年次	選択群		
使用教科書	介護福祉基礎 (実教出版)			副教材等		履修	必修・ <b>選択</b>	
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
<p>介護とは何か、介護の意義と役割について学びます。介護従事者としての心構え・注意点等を学び、国民の求める介護従事者の在り方について考えていきます。利用者の実態・課題・ニーズなどについて考え、適切な介護を行うことのできる能力と態度を育てます。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>介護の果たす意義と役割について理解する。</li> <li>介護を適切に行うための基礎的な知識・能力・態度、介護従事者としての職業観を身に付ける。</li> <li>介護活動に意欲的に取り組むことができる。</li> </ul>			<p>介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。</p>		
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	第4編 介護福祉の 担い手	第1章 介護従事者をとりまく状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護福祉士の養成</li> <li>介護人材の確保と定着</li> <li>介護従事者のキャリアアップ研修</li> <li>介護従事者の社会的地位向上</li> </ul>				
	5月		第2章 介護従事者の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護の役割</li> <li>介護福祉士の役割</li> </ul>				
	6月			<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅介護従事者の役割</li> <li>施設介護従事者の役割</li> </ul>				
	7月	第5編 介護福祉サ ービスの概 要と連携	第1章 介護サービスの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護サービスの利用方法</li> <li>介護サービス提供の場の特性</li> <li>居宅介護サービス（福祉系）</li> <li>居宅介護サービス（医療系）</li> <li>介護サービス提供の場の特性（施設）</li> <li>施設サービス</li> <li>障害者支援サービス</li> <li>多職種連携とチームケア</li> <li>介護と医療</li> <li>介護支援専門員とケアチームの連携</li> <li>介護従事者とボランティアとの連携</li> </ul>				
	9月			第2章 介護における連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護におけるリスクマネジメント</li> <li>事故予防対策</li> <li>身体拘束の禁止について</li> <li>感染症の理解</li> <li>感染症の予防対策</li> <li>健康管理の重要性</li> <li>心の健康管理</li> <li>福祉用具と介護ロボットの活用</li> <li>家族介護者の健康</li> </ul>			
	10月		第1章 介護における安全確保と事故対策		<ul style="list-style-type: none"> <li>介護における安全確保と事故対策</li> <li>感染症の理解</li> <li>感染症の予防対策</li> <li>健康管理の重要性</li> <li>心の健康管理</li> <li>福祉用具と介護ロボットの活用</li> <li>家族介護者の健康</li> </ul>			
	11月				第2章 感染対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護における安全確保と事故対策</li> <li>感染症の理解</li> <li>感染症の予防対策</li> <li>健康管理の重要性</li> <li>心の健康管理</li> <li>福祉用具と介護ロボットの活用</li> <li>家族介護者の健康</li> </ul>		
	12月	第3章 介護従事者の健康管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護における安全確保と事故対策</li> <li>感染症の理解</li> <li>感染症の予防対策</li> <li>健康管理の重要性</li> <li>心の健康管理</li> <li>福祉用具と介護ロボットの活用</li> <li>家族介護者の健康</li> </ul>					
	1月		第1章 介護における安全確保と事故対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護における安全確保と事故対策</li> <li>感染症の理解</li> <li>感染症の予防対策</li> <li>健康管理の重要性</li> <li>心の健康管理</li> <li>福祉用具と介護ロボットの活用</li> <li>家族介護者の健康</li> </ul>				
	2月			第2章 感染対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護における安全確保と事故対策</li> <li>感染症の理解</li> <li>感染症の予防対策</li> <li>健康管理の重要性</li> <li>心の健康管理</li> <li>福祉用具と介護ロボットの活用</li> <li>家族介護者の健康</li> </ul>			
	3月	第3章 介護従事者の健康管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護における安全確保と事故対策</li> <li>感染症の理解</li> <li>感染症の予防対策</li> <li>健康管理の重要性</li> <li>心の健康管理</li> <li>福祉用具と介護ロボットの活用</li> <li>家族介護者の健康</li> </ul>					
3月	第3章 介護従事者の健康管理		<ul style="list-style-type: none"> <li>介護における安全確保と事故対策</li> <li>感染症の理解</li> <li>感染症の予防対策</li> <li>健康管理の重要性</li> <li>心の健康管理</li> <li>福祉用具と介護ロボットの活用</li> <li>家族介護者の健康</li> </ul>					
学習方法		<p>【予習】 教科書をよく読んで理解しましょう。分からない専門用語については、事前に調べておきましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、その時間に質問しましょう。演習等で学ぶ介護技術については、よく見て体験的に身に付けていきましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容の重要ポイントは、必ず覚えましょう。</p>						
評 価 の 観 点 ・ 評 価 規 準 ・ 評 価 方 法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技 能		知識・理解	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護に関心をもち、介護に関する諸課題に主体的に取り組むとともに、介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護を行う上での基本的な考え方や介護を適切に行う態度を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活から派生する介護福祉に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、介護に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>介護に関する基礎的・基本的な知識や技術を身に付け、介護を必要とする人に、自立支援の観点に基づいた適切な介護福祉サービスを提供することを目指してその技術を活用している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>介護福祉に関する基礎的な知識を身に付けるとともに、介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護の意義や役割について理解している。</li> </ul>	
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末	
<p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。</p> <p>A：主に考查による観点別評価</p> <p>B：主に授業等の活動による観点別評価</p>		<p>A：6割 B：4割</p> <p>Bは、小テスト、課題の取組、授業態度、長期休業中の課題等</p>		<p>A：6割 B：4割</p> <p>Bは、小テスト、課題の取組、授業態度、長期休業中の課題等</p>		1・2・3学期の平均		
備考								

コミュニケーション技術

総合学科

教科	福祉	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	
使用教科書	コミュニケーション技術 (実教出版)			副教材等			履修 必履修・ <b>選択</b>
授業の概要				学習の到達目標		履修の条件・進路	
福祉の問題を抱えている利用者・家族との介護場面におけるコミュニケーションの意義・目的・技法を理論と事例を組み合わせずて学ぶ科目です。 保健・医療・福祉など多職種が連携・協力し介護を実践するためのコミュニケーションの意義や重要性についても考えていきます。				<ul style="list-style-type: none"> <li>介護を必要とする利用者・家族への個別的な援助・集団的な援助のための基本的なコミュニケーション技法について習得する。</li> <li>介護を実践するためのチームにおけるコミュニケーションの在り方、重要性について理解する。</li> </ul>		介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	第1編 介護におけるコミュニケーション	第1章 コミュニケーションの意義と役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の理解と人間関係</li> <li>コミュニケーションとは</li> </ul>			
	5月		第2章 コミュニケーションの基本技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション</li> <li>受容と共感</li> <li>対人援助におけるコミュニケーションの実際</li> <li>個別援助としてのコミュニケーション</li> <li>集団援助としてのコミュニケーション</li> </ul>			
	6月		第3章 援助の技法とコミュニケーション				
	7月						
	9月	第2編 サービス利用者や家族とのコミュニケーション	第1章 サービス利用者や家族との関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者や家族との関係づくり</li> <li>家族への支援</li> </ul>			
	10月		第2章 サービス利用者に応じたコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者とのコミュニケーション</li> <li>障害とのコミュニケーション</li> <li>視覚障害のある人とのコミュニケーション</li> <li>聴覚障害のある人とのコミュニケーション</li> <li>言語障害のある人とのコミュニケーション</li> <li>運動機能障害のある人とのコミュニケーション</li> <li>知的障害のある人とのコミュニケーション</li> <li>認知症の人とのコミュニケーション</li> </ul>			
	11月						
	12月						
	1月	第3編 介護におけるチームのコミュニケーション	第1章 記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録の意義と目的</li> <li>記録の種類</li> <li>記録の方法と管理</li> <li>振り返り</li> </ul>			
	2月		第2章 サービス利用者に応じたコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームのコミュニケーション</li> <li>情報の共有化</li> </ul>			
	3月		第3章 スーパービジョンの技法	<ul style="list-style-type: none"> <li>スーパービジョンとは</li> <li>スーパービジョンの方法</li> </ul>			
学習方法	<p>【予習】 教科書を事前にしっかりとよく読んでおきましょう。分からない専門用語は、福祉用語辞典で調べておきましょう。</p> <p>【授業】 他の福祉科目と関連付けながら、事例を通して、知識と技術を身に付けていきましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容はしっかりと復習しましょう。実習の時は、学習した内容についてレポートを提出しますので、ポイントをしっかりと確認しておきましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知 識・理 解			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションの重要性とその方法に興味をもち、高齢者や障害者など生活支援に向けて介護を行う上での基本的な考え方や介護を適切に行う態度を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対人援助活動の実践的な活動の意義について深く考え場面に応じて、利用者・家族</li> <li>環境における問題点や状況を把握し、介護に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象に応じたコミュニケーションの技術及び方法を身に付け活用している。</li> <li>事例・実習などについての資料や情報をまとめ適切に活用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションの意義を理解し、各場面に応じた技法について理解している。</li> <li>コミュニケーションの中心を利用者において、生活を支援する重要性を理解している。</li> </ul>			
※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考查による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価	第1・2学期		第3学期	年度末			
	A：6割 B：4割 Bは、小テスト、レポート、長期休業中の課題、授業態度等		A：6割 B：4割 Bは、小テスト、レポート、授業態度、長期休業中の課題等	1・2・3学期の平均			
備考							

生活支援技術

総合学科

教科	福祉	単位数	5単位	対象	3年次	選択群				
使用教科書	生活支援技術 (実教出版)			副教材等	最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア (中央法規)	履修	必履修・ <b>選択</b>			
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路			
<p>利用者の自立を尊重した生活を支援するための基本介護技術と医療的ケアに関する技術を学びます。また、状況に応じて介護を展開する「現場で活かせる技法」の習得を目指します。</p> <p>さらに、高齢者の心と体の特性についての学習を基に、認知症や心身に障害をもつ高齢者に対して、適切な介護を行うことができる能力と態度を育てます。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の暮らしの場に密着した支援と、居住環境の整備や家事支援における介護のあり方を理解する。</li> <li>利用者の自立をふまえた移動、食事、排泄等、生活行為ごとの基本介護技術を身に付ける。</li> <li>さまざまな障害がある利用者の生活について理解を深め、それぞれの障害に応じた介護技術の習得に向けて努力できる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。</li> <li>福祉サービス系列選択者のみ履修可能です。</li> </ul>			
学習の年間計画	月	単元名	単元名 (医療的ケア)	項目	項目 (医療的ケア)	学習内容	学習内容 (医療的ケア)			
	4月	第2編 自立に向けた生活支援技術	第1章 医療的ケア実施の基礎	第5章 食事の介護	第1節 医療的ケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事の意義と目的</li> <li>食事における介護技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療的ケアとは</li> <li>医行為について</li> <li>喀痰吸引等制度</li> </ul>			
	5月			第6章 入浴・清潔保持の介護	第2節 安全な療養生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活を支える入浴・清潔保持の介護</li> <li>入浴・清潔保持における介護技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療的ケアと喀痰吸引等の背景</li> <li>喀痰吸引や経管栄養の安全な実施</li> <li>救急蘇生 ・ 感染予防</li> </ul>			
	6月			第2章 喀痰吸引 (基礎的知識・実施手順)	第3節 清潔保持と感染予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立生活を支える排せつ</li> <li>排せつにおける介護技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護福祉職の感染予防</li> <li>療養環境の清潔、消毒法</li> <li>消毒と滅菌 ・ 身体・精神の健康</li> </ul>			
	7月	第2編 自立に向けた生活支援技術	第2章 喀痰吸引 (基礎的知識・実施手順)	第7章 排せつの介護	第4節 健康状態の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立生活を支える排せつ</li> <li>排せつにおける介護技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護福祉職の感染予防</li> <li>療養環境の清潔、消毒法</li> <li>消毒と滅菌 ・ 身体・精神の健康</li> <li>健康状態を知る項目</li> <li>急変状態について</li> </ul>			
	9月			第8章 睡眠の介護	第1節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	<ul style="list-style-type: none"> <li>睡眠の意義と目的</li> <li>睡眠における介護技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論</li> </ul>			
	10月			第9章 レクリエーションにおける介護技術	第2節 高齢者および障害児・者の経管栄養概論	<ul style="list-style-type: none"> <li>レクリエーションの意義と目的</li> <li>レクリエーションにおける介護技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者および障害児・者の経管栄養概論</li> </ul>			
	11月	第3編 終末期・緊急時の介護	第3章 経管栄養	第1章 終末期の介護	第2節 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>経管栄養実施手順解説</li> <li>第3節 救急蘇生法の手引き</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急蘇生法</li> <li>AED使用の手順</li> </ul>			
	12月				第4章 演習	第1節 救急蘇生法の手引き	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急蘇生法</li> <li>AED使用の手順</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急蘇生法</li> <li>AED使用の手順</li> </ul>		
	1月				第4章 演習	第2節 救急蘇生法の手引き	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急蘇生法</li> <li>AED使用の手順</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急蘇生法</li> <li>AED使用の手順</li> </ul>		
2月	第3編 終末期・緊急時の介護	第4章 演習	第2章 緊急時の介護	第1節 喀痰吸引のケア実施の手引き	<ul style="list-style-type: none"> <li>終末期ケアの意義と介護の役割</li> <li>終末期における介護技術</li> <li>緊急時における対応</li> <li>災害時における安全対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>口腔内および鼻腔内</li> <li>気管カニューレ内部</li> <li>胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養</li> <li>半固形化栄養剤による胃ろうまたは腸ろうの経管栄養</li> <li>経鼻経管栄養</li> </ul>				
3月				第2節 喀痰吸引のケア実施の手引き	<ul style="list-style-type: none"> <li>終末期ケアの意義と介護の役割</li> <li>終末期における介護技術</li> <li>緊急時における対応</li> <li>災害時における安全対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>口腔内および鼻腔内</li> <li>気管カニューレ内部</li> <li>胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養</li> <li>半固形化栄養剤による胃ろうまたは腸ろうの経管栄養</li> <li>経鼻経管栄養</li> </ul>				
学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読んで理解しましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、その時間に質問しましょう。介護技術・医療的ケア演習については、模範実技をよく見て体験的に身に付けていきましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容の重要ポイントは、必ず覚えましょう。実技実習の時は、学習した内容についてまとめて、レポートを提出します。</p>									
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技 能		知識・理解			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援技術の理念に関心を持ち、積極的に授業に参加し、高齢者や障害者の命と生活に責任をもつ専門職としての職業観を探究し介護を行う上での基本的な考え方や介護を適切に行う態度を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援に関する諸問題の解決を目指して、自ら思考を深め、介護に携わる者として適切に判断し表現する創造的な能力を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>介護に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、介護従事者として安全に支援を行うために必要な様々な資料や情報を収集し、適切に選択して活用している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者や障害者の特性、対象者の状態に応じた介護方法に関する知識・技術を理解している。</li> <li>支援方法の原理・原則を科学的に理解している。</li> </ul>			
	<p>評価方法</p> <p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。</p> <p>A：主に考查による観点別評価</p> <p>B：主に授業等の活動による観点別評価</p>		<p>第1・2学期</p> <p>A：6割 B：4割</p> <p>Bは小テスト、実技テスト、実習記録、授業態度、長期休業中の課題等</p>		<p>第3学期</p> <p>A：6割 B：4割</p> <p>Bは、小テスト、実技テスト、授業態度、長期休業中の課題等</p>		<p>年度末</p> <p>1・2・3学期の平均</p>			
備考	3年次介護実習において、看護職より医療的ケアの基礎知識と対象に応じた実施方法について学ぶ。									

介護過程

総合学科

教科	福祉	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	
使用教科書	介護過程 (実教出版)			副教材等		履修	必履修・ <b>選択</b>
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
他科目で学んだ知識と技術を統合し、適切に介護過程を展開するための理論と方法を学びます。 さらに、介護過程の一連の流れを通して、介護従事者として必要な視点と能力を身につけます。			<ul style="list-style-type: none"> <li>サービス利用者に応じた適切な介護を提供するには、介護過程が必要不可欠であることを理解する。</li> <li>介護過程の一連の流れについて理解し、サービス利用者の自立や希望を尊重した介護過程が展開できる。</li> </ul>			介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	第2編 介護過程の 展開	第4章 介護計画の実施と評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護計画の実施 実施の記録</li> <li>介護過程のモニタリング・評価 評価の意義・目的 評価の方法・留意点 介護計画の変更・修正</li> </ul>			
	5月						
	6月	第3編 介護過程の 実践的展開	第1章 介護過程の展開の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護過程の展開の実際</li> </ul>			
	7月						
	9月	第3編 介護過程の 実践的展開	第1章 介護過程の展開の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>アセスメントの実際 ICFにもとづいた情報の整理</li> </ul>			
	10月						
	11月	第4編 介護過程と チームアプ ローチ	第2章 利用者の生活と介護過程の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者のさまざまな生活と介護過程の展開</li> <li>事例で考える利用者の生活と介護過程の展開</li> </ul>			
	12月						
	1月	第4編 介護過程と チームアプ ローチ	第1章 介護過程とチームアプローチの意義 第2章 介護過程とチームアプローチの実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームアプローチが持つ意義</li> <li>多職種連携</li> <li>施設介護におけるチームアプローチ</li> <li>在宅介護におけるチームアプローチ</li> </ul>			
	2月						
	3月						
学習方法	<p>【予習】 教科書を事前にしっかりとよく読んでおきましょう。</p> <p>【授業】 他の福祉科目と関連付けながら、座学と演習を通して、知識と技術を身に付けていきましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容はしっかりと復習しましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技 能		知識・理解
	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護過程に興味をもち、高齢者や障害者などの自立生活支援に向けて、介護を行う上での基本的な考え方や、介護を適切に行う態度を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>介護過程の意義と役割をふまえ、課題を解決するための思考を深め介護に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者の自立や希望に目を向けた介護過程のための情報を収集し選択して活用している。</li> <li>具体的な事例を通して、チームアプローチの展開方法を身につけ、その技術を活用している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>個別性を考慮した適切な介護の提供には、介護過程が必要なことを理解している。</li> <li>介護過程の展開には、国際生活機能分類の視点を考慮する事が必要であることを理解している。</li> </ul>
	評価方法 ※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に調査による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		第1・2学期		3学期		年度末
		A：6割 B：4割 Bは、小テスト、レポート、長期休業中の課題、授業態度等		A：6割 B：4割 Bは、小テスト、レポート、授業態度、長期休業中の課題等		1・2・3学期の平均	
備考							

介護総合演習

総合学科

教 科	福 祉	単位数	2 単位	対象	3 年次	選択群	
使用教科書	最新・介護福祉士養成講座10 (中央法規)			副教材等		履修	必履修・ <b>選択</b>
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
効果的な介護実習ができるよう準備をします。 他科目での学びを統合化し、介護実習に向かうために必要な知識と技術の学習を、実習の時期や内容と連動させて継続的、総合的に行います。			<ul style="list-style-type: none"> <li>介護実習の目的と意義、施設の特質・実習内容を理解し、介護現場で積極的に学ぶ実践的態度を身につける。</li> <li>他科目で学習した知識や技術を理解し、実習で応用することができる。</li> <li>介護実習の体験から問題提起を行うことができる。</li> </ul>			介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	第6章 実習Ⅱの展 開	1 実習Ⅱのねらいと実習モデル	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習Ⅱのねらい</li> <li>想定される実習Ⅱのモデル</li> </ul>			
	5月		2 実習モデル・介護過程を展開する介護実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護過程の展開を軸にした実習の目的</li> <li>観察、コミュニケーション、記録類を通じた介護に必要な情報収集</li> <li>収集した情報の解釈、関連づけ、統合化と、利用者の生活課題の明確化</li> <li>利用者や他職種との介護計画立案</li> <li>利用者の安全性、快適さ、自立に配慮した介護の実践</li> </ul>			
	6月						
	7月						
	9月	第6章 実習Ⅱの展 開	2 実習モデル・介護過程を展開する介護実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護目標達成の評価</li> <li>具体的な支援内容が適切であったかの評価</li> <li>介護計画を修正する必要性の判断</li> <li>介護実習Ⅱのモデルと関連する他科目の学習</li> <li>「介護過程の展開」のまとめと振り返り</li> </ul>			
	10月						
	11月						
	12月						
	1月	第7章 介護総合演 習の実際	1 介護総合演習における知識と技術の統合化	<ul style="list-style-type: none"> <li>他科目で学んだ知識と技術を統合する方法</li> <li>質の高い介護に向けた実践研究</li> </ul>			
	2月		2 介護総合演習における介護観の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護観とは何か</li> <li>介護観を養う</li> <li>介護観を発信する</li> </ul>			
	3月						
学習方法	<p>【予習】 設定した課題について調査しましょう。</p> <p>【授業】 グループワークや発表会等、体験的な学習を多く取り入れるので、自分の考えをしっかりと主張しましょう。</p> <p>【復習】 介護実習後は、目標達成度の評価をきちんと行いましょう。</p>						
評価の 観点・ 評価規 準・評 価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技 能		知識・理解
	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉現場への関心を高め介護実習に意欲的に臨み問題解決のために自主的実践的な態度で取り組み介護を行う上での基本的な考え方や介護を適切に行う態度を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>現場で、自分がどのような介護ができるのか考え介護サービス・介護従事者としての専門性について思考を深め、介護に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>他科目での学びを統合化し、高齢者や障害者の状態に応じた介護技術を適切に選択して活用している。</li> <li>記録を通して自分の体験を振り返り、自らの課題を見つけ、解決に向けた情報を収集し、適切に選択して活用している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>介護実習の目標設定ができ、その意義について理解している。</li> <li>他職種協働の重要性を理解している。</li> <li>反省と評価の方法を理解している。</li> </ul>
	※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考查による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		第1・2学期		第3学期		年度末
		A：7割 B：3割 Bは、授業態度、課題の取組状況、長期休業中の課題等		A：7割 B：3割 Bは、授業態度、課題の取組状況、長期休業中の課題等		1・2・3学期の平均	
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>「介護実習」での現場体験と一部関連しています。</li> </ul>						

介護実習

総合学科

教 科	福 社	単位数	7 単位	対象	3 年次	選択群	
使用教科書	最新・介護福祉士養成講座10 (中央法規)			副教材等		履修	必修・ <b>選択</b>
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
1・2年次での介護実習や今までの学習をふまえて、介護過程の展開等、専門職としての総合的な知識と技術の習得と資質の向上を図ります。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習上の問題点や次のステップへの課題を明確にしながら取り組む。</li> <li>・介護の本質についての考察を深め介護専門職として倫理・価値観を身に付ける。</li> <li>・高齢者や身体障害者の身体的・精神的特徴を理解した上で、実践的な介護知識及び技術を身に付ける。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。</li> <li>・福祉サービス系列選択者のみ履修可能です。</li> </ul>	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	・介護実習	1 対象者の理解とその方法 (介護過程の展開) 2 処遇の実際 3 記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の身体的・心理的特徴、高齢者の身体的・精神的障害、個々の入所に適した処遇のあり方</li> <li>・介護過程の展開の実際</li> <li>・記録の意味・記録の種類と書き方・記録の活用と秘密保持</li> <li>・ADLにおけるニーズと介護の方法、施設職員の機能</li> <li>・記録の活用</li> <li>・スーパービジョンの方法</li> </ul>			
	5月						
	6月						
	7月						
	9月						
	10月						
	11月						
	12月						
	1月						
	2月						
	3月						
	学習方法	<p>【予習】 「介護実習オリエンテーション資料」をよく読みましょう。また、技術面の復習をしっかりと行いましょう。</p> <p>【授業】 課題をよりよく解決していくために今、何をしなければならぬのかを考え行動しましょう。知識や技術の向上とともに人間性を高める努力も必要です。</p> <p>【復習】 実習日誌は毎日、現場実習指導者に提出しますので、きちんとまとめておきましょう。</p>					
評価の観点・評価基準・評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護専門職としての自覚をもち、真摯かつ謙虚な気持ちで実習に取り組んでいる。</li> <li>・介護を行う上での基本的な考え方や介護を適切に行う態度を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護現場の状況に応じて適切に対応し、介護技術やコミュニケーション方法などを対象者に応じて選択し介護専門職として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護専門職としての総合的な知識や技術について情報を収集し適切に選択して活用している。</li> <li>・対象者の心身の状況に応じた自立生活支援のための介護サービスに関する情報を収集し選択し、日誌にまとめて記録し活用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護専門職の役割を理解するとともに、基本的な知識・技術を理解している。</li> <li>・介護専門職としてふさわしい態度や資質を理解している。</li> </ul>			
評価方法	※ 上記の観点を基に、各実習とも評価する。	第1・2学期	第3学期	年度末			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習日誌（日誌・自己評価・実習報告）、実習先の評価、介護実習の取組状況などから、総合的に評価します。</li> </ul>		1・2学期の実習の成績を基に総合的に評価します。			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習は八幡浜市等の近隣の施設で行います。</li> <li>・6・7月頃に28日程度介護実習を行います。</li> <li>・3年次介護実習において、看護職より医療的ケアの基礎知識と対象に応じた実施方法について学ぶ。</li> </ul>						

こころとからだの理解

総合学科

教 科	福 祉	単位数	5 単位	対象	3 年次	選択群	
使用教科書	こころとからだの理解 (実教出版)			副教材等			履修 必履修・ <b>選択</b>
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>介護を行う上で必要となる、人間の「からだのしくみ」と「こころのしくみ」を学びます。 さらに、認知症、障害のある人の生活と介護を学ぶことで、介護実践に適切に活用できる技術と知識を身につけます。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の構造と機能、こころのしくみについての基礎的・基本的な内容について理解する。</li> <li>・疾病の成り立ちと回復の過程について、基礎的な内容を理解し、説明できる。</li> <li>・認知症及び障害に関する、原因、治療法、予防について理解する。</li> </ul>			<p>・介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。</p>	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	第4編 認知症の理解	第1章 認知症をとりまく環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症介護の歴史と理念</li> <li>・認知症高齢者の現状と今後</li> <li>・認知症に関する行政の方針と施策</li> </ul>			
	5月		第2章 認知症の基礎的理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症による症状</li> <li>・認知症の診断</li> <li>・認知症の主な病気の特徴</li> <li>・若年性認知症</li> </ul>			
	6月		第3章 認知症に伴う心身の変化と日常生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の薬物療法</li> <li>・認知症の人の特徴的な行動・心理</li> <li>・認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響</li> </ul>			
	7月		第4章 認知症と地域サポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域におけるサポート体制</li> <li>・家族への支援</li> </ul>			
			第5章 認知症ケアの実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人へのケア</li> <li>・認知症の人とのコミュニケーション</li> </ul>			
	9月	第5編 障害の理解	第1章 障害の基礎的理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の概念</li> <li>・障害者福祉の基本理念</li> </ul>			
	10月		第2章 生活機能障害の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体障害 視覚障害、聴覚・言語障害、肢体不自由、内部障害</li> <li>・精神障害</li> <li>・知的障害</li> <li>・発達障害</li> <li>・高次脳機能障害</li> <li>・難病</li> </ul>			
	11月		第3章 障害に伴う心身の変化と日常生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある人の心理</li> <li>・障害に伴う機能の変化と日常生活への影響</li> </ul>			
	12月	第5編 障害の理解	第4章 障害と地域生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域におけるサポート体制</li> <li>・家族への支援</li> </ul>			
	1月						
	2月						
3月							
学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読んで理解し、専門用語はしっかりとまとめておきましょう。 【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、その時間に質問しましょう。板書以外にもポイントとなることはメモをとっておきましょう。 【復習】 その日に学習した内容の重要なポイントは必ず覚え、まとめておきましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技 能		知識・理解
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の構造やはたらき・人間の基本的な生活行動に関する器官の働きや疾病の成り立ちに関心を持ち、介護を行う上での基本的な考え方や介護を適切に行う態度を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・人体のこころとからだの理解の必要性を理解し、医学的根拠に基づいた援助活動を考え、疾病の治療や予防について介護に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の構造と機能の知識をもとに、介護の現場に生かすことを目指してその技術を活用している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の構造と機能、こころのしくみ、認知症、障害に関する基礎的な内容についての知識を身に付けている。</li> <li>・人間の健康と疾病及びこれらと環境の関係について理解している。</li> </ul>
	<p>評価方法 ※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考査による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価</p>		<p>第1・2学期 A：7割 B：3割 Bは授業態度、小テスト、課題の提出、ノート、長期休業中の課題等</p>		<p>第3学期 A：7割 B：3割 Bは授業態度、小テスト、課題の提出、ノート、長期休業中の課題等</p>		<p>年度末 1・2・3学期の平均</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科（理科・保健等）と関連が深い授業です。</li> </ul>						



